

研究課題名：

2019-新型コロナウイルス(2019-nCoV)感染症対策に資する開発研究

研究の目的と方法：

2019年12月以降中国湖北省武漢市を中心に発生が確認されている新型コロナウイルス感染症は、世界的に大きな問題となっています。この感染症のリスクを正しく理解するためには、ウイルスの特徴や病原性を詳しく調べたり、簡便で迅速性の高い検査系を開発することが必要不可欠です。そこで、我々は、新型コロナウイルス感染を疑われる患者様から検査のために採取した検体の残りをを使って、検査系の開発をすすめるとともにウイルスの特徴と病原性を調べています。本研究の成果は新型コロナウイルス感染症対策に直接的につながることを期待されます。国立感染症研究所に保管されている全ての検体は医療機関から送付される際に匿名化されており、個人の特定は出来ません。よって、研究の成果が学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

研究の対象者及び対象期間：

2020年以降に受診医療機関を通じて感染研に新型コロナウイルスの検査のために検体を送付された患者様と令和4年(2022年)3月31日の研究終了までに受診医療機関を通じて感染研に新型コロナウイルスの検査のために検体を送付された患者様(小児を含みます)

研究に利用する試料・情報：

検査依頼機関から新型コロナウイルス検査のために感染研に提供された検体の残余(感染研に送付時に個人が特定されないように匿名化されており、年齢、性別、新型コロナウイルス感染に関する疫学情報、既往歴、臨床症状、臨床経過、臨床検査結果、病原体検査結果、患者様周囲の環境検体などを含みます。)

研究組織：

国立感染症研究所、国立研究開発法人国立国際医療研究センター、東京都保健医療公社 豊島病院、東京都立墨東病院、がん・感染症センター都立駒込病院、亀田総合病院、東京都保健医療公社 荏原病院、防衛医科大学校、自衛隊中央病院、武蔵野赤十字病院、地域医療機能推進機構東京新宿メディカルセンター、公立昭和病院

試料・情報の管理について責任を有する者：

情報の管理：国立感染症研究所 所長 脇田隆字

試料の管理：国立感染症研究所 ウイルス第三部第四室 室長 松山州徳

試料の管理：国立感染症研究所 感染病理部 部長 鈴木忠樹

試料の管理：国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター第三室長 室長 藤本嗣人

お問い合わせ先：

〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

国立感染症研究所

脇田 隆字(研究責任者)

TEL 03-5285-1111 FAX 03-5285-1189